



vision

嚥下障害のある患者様の食事援助

回心堂第二病院 看護部介護科



患者様紹介

- 氏名:
T様 85歳 女性
- 診断名:
脳梗塞後遺症・胸部大動脈瘤の左反回神経圧迫による嚥下障害
- ADL:
右上下肢麻痺、長谷川式簡易認知スケール2点視力・聴力に問題なし。むせ込み多く、食事摂取量にむらがある。食事は全粥・副食ミキサー食でセッティングし、見守り・半介助・水分はトロミ
- 実施期間:
2ヶ月



ニーズと目標

- 解決すべきニーズ
嚥下障害によるむせ込みが多く、肺炎・窒息栄養障害・大動脈瘤の負担など二次障害の発生の危険がある
- 長期目標
食事摂取への恐怖心を取り除き、意欲を高め栄養障害の悪化を防ぐ
- 短期目標
むせ込みの軽減



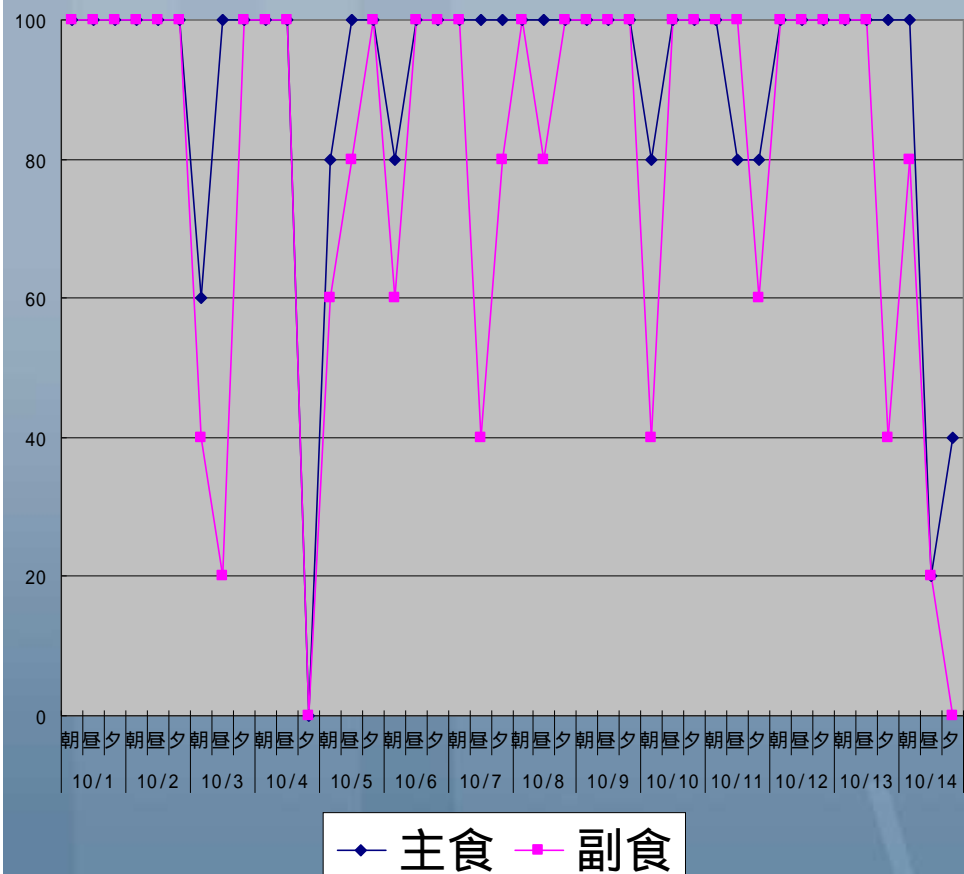
経過観察ノート

	朝	昼	夕
メニュー	全粥 味噌汁 二色浸し	全粥 鶏の照り焼き ブロッコリーサラダ 和え物	全粥 鮭のホイル焼き 大根の煮物 ほうれん草のお浸し
摂取量	朝 夕 10割 昼 10割 おやつ 10割	朝 夕 8割 昼 8割 おやつ 8割	朝 夕 10割 昼 10割 おやつ 10割
むせ込み	食べ始めと食後にりんごジュースで浅いむせ込み有り。食後のむせ込みは無かった。	食べ始め数口に何度か、むせ込みがあった。	全体的にむせ込みは多く、何度も咳き込んだ。
口腔体操	スタッフの促しに反応し、舌を出したり声をしっかりおこなっていた。	スタッフに目をやり、同じ事を繰り返し伝えると「うん」と頷きはするものの、あまり行なわなかった。	口腔体操は、発声以外一緒にやっており表情も良かった。
様子	むせ込みは少なく2回程、急がず事なく自分のペースで摂取できたのでむせ込みを防ぐ事は出来たのではと思う。主食はほぼ自力摂取	食べる意欲は見受けられている。緑のスプーンが手に合わないのか他患が使用するスプーンを使用し食べている姿が見られた。	むせ込みが多いながら止める事無く食べ続けていた。主食ばかり食べ続けてしまうのでおかずを勧めると「うん」と頷き食べる。

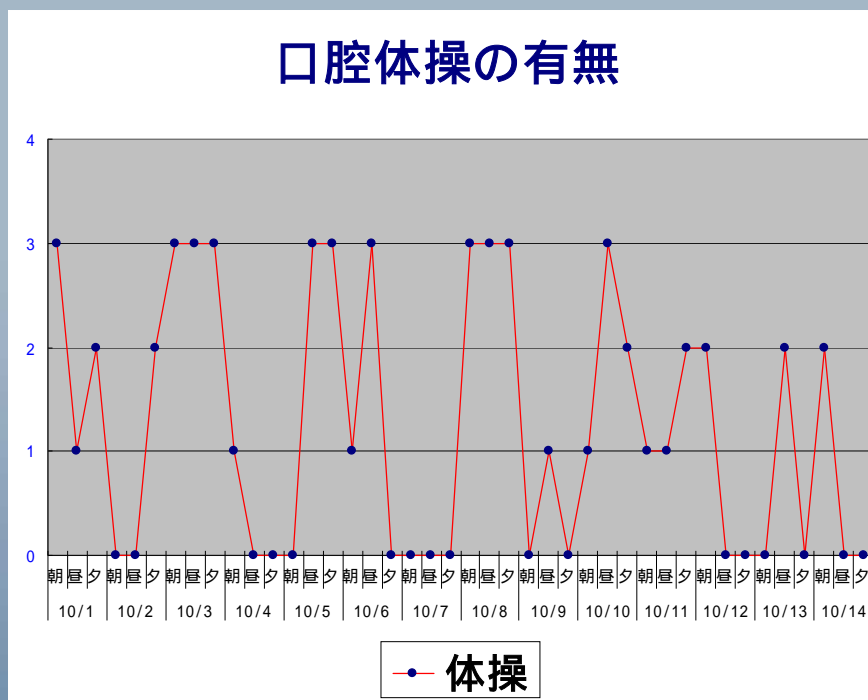


第一期食事摂取量と口腔体操

主食・副食の摂取量



口腔体操の有無





< 第一期 14日間 > プラン1

- ・経過観察ノートの記入
- ・食前口腔体操をスタッフ一人が必ず付き添う

< 第二期 16日間 > プラン2

- ・ホットタオルによる頬・首のマッサージ、アイススティックにより口腔内マッサージ
- ・口腔体操時、食事時はテレビを消す

< 第三期 7日間 > プラン3

- ・覚醒時安定を図る為、離床時間を30分早める

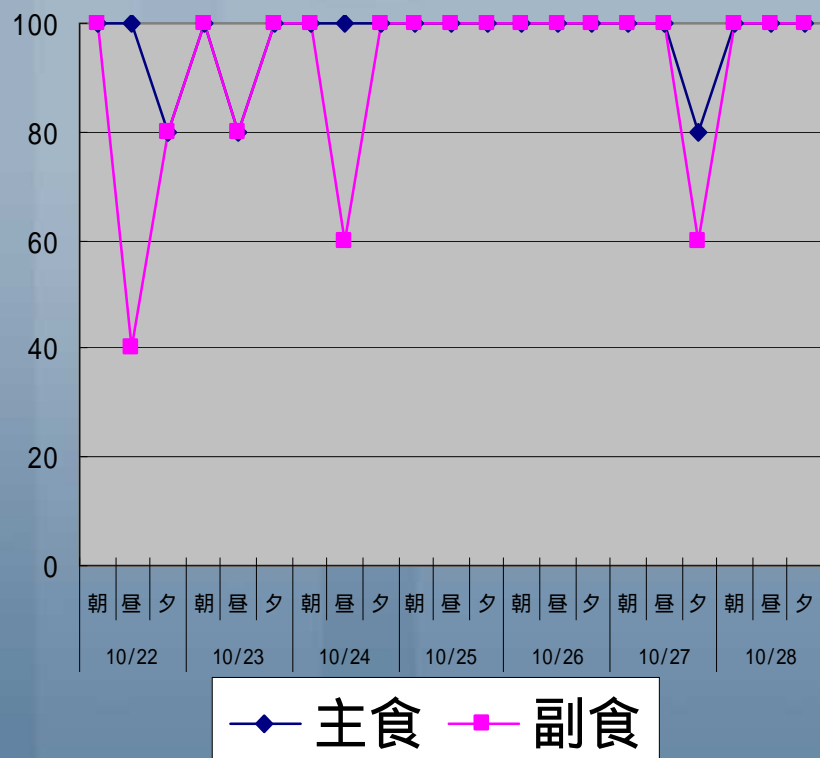
< 第四期 14日間 > プラン4

- ・食事摂取への意欲を高める為、昼食のみ「ミキサー食」から「キザミ食」へ変更する



第三期食事摂取量と口腔体操

主食・副食の摂取量

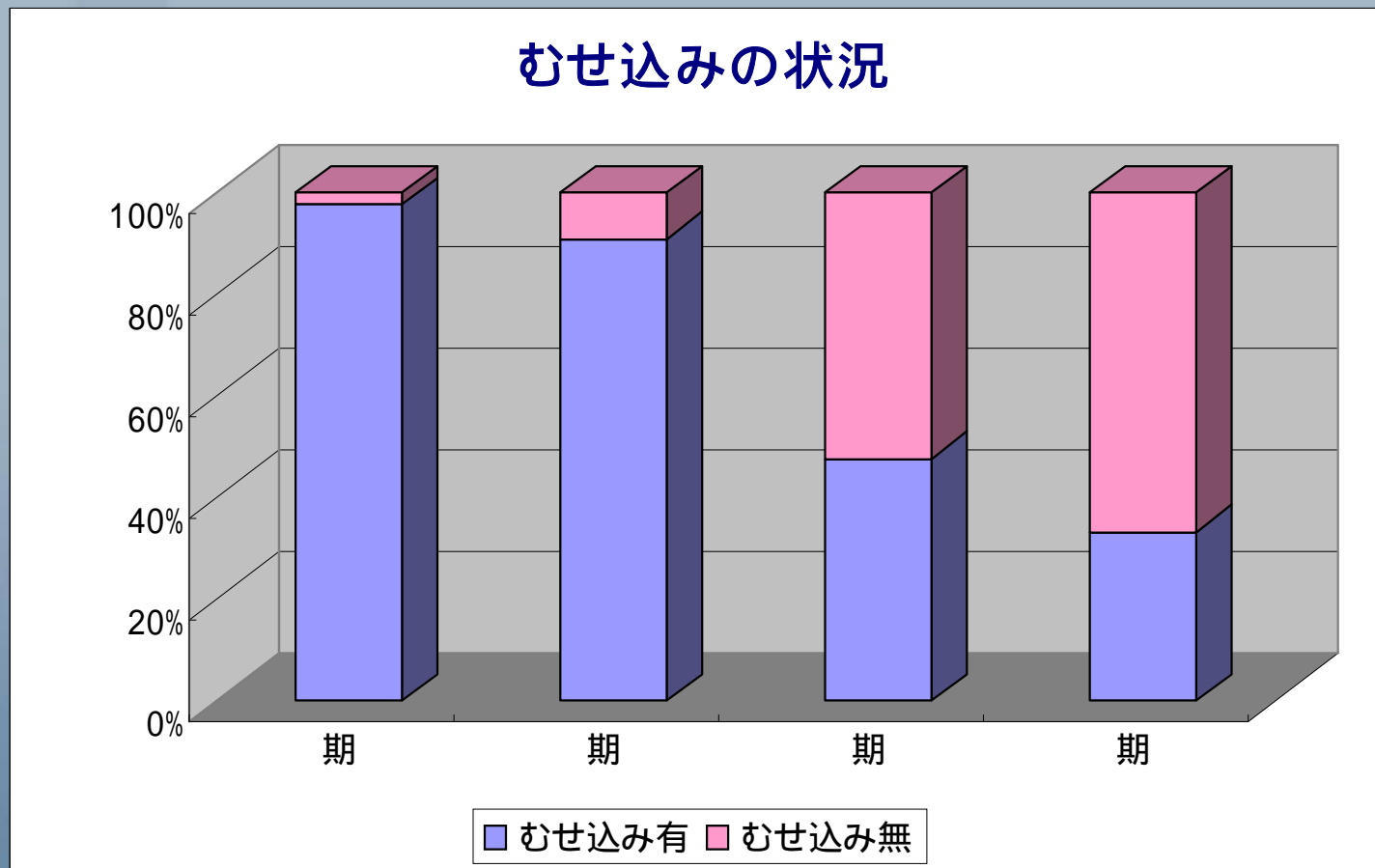


口腔体操の有無





むせ込みの状況





考察

今回目標が達成できた要因として：

- 経過観察記録により細かな情報を収集する事で、情報の共有ができ統一したケアができた。
- 経過観察記録の情報から問題点を明確化でき、有効なケアを検討し、実施していくことができた。
- スタッフ一人ひとりが意識と目的を持っておこなうことができた。